

KEY TOPIC

『地域みっちゃん生活情報誌®』とHAPPY MEDIA®という羅針盤 ふたつの商標で示す未来図

中広は『地域みっちゃん生活情報誌®』と、HAPPY MEDIA®というふたつの商標を登録しており、そのブランド価値を市場で保護しています。ではこのふたつにはどのような違いがあり、それぞれ何を目指しているのでしょうか。中広グループの事業展開の根幹にかかるふたつのブランドの役割について解説します。

地域に不可欠なメディア

『地域みっちゃん生活情報誌®』

中広グループとVC※加盟各社が発行している『地域みっちゃん生活情報誌®』は、各地域で発行している定期刊行物。生活圏で発行エリアを区切り、そのエリアの全世代を読者対象とし、あらゆるジャンルの生活情報を網羅する。季節性や話題性など多彩な切り口を付与した企画を展開し、隅々まで読んでもらえる編集がなされた、地域に不可欠な雑誌。それが定義です。

『地域みっちゃん生活情報誌®』の特徴のひとつが、地域の各家庭に無料でお届けすることです。家に届いた情報誌を開いた読者が地元のことを知り、掲載店に足を運ぶきっかけになる。チラシよりも保存性が高く、次の号が届くまで家族が読み回せる面白興味深い雑誌。そんな情報誌を届けることによって、地域愛の醸成、そして地域経済の循環と活性化を目的としています。

5,000万部の目標に 込めた決意と思い

現在、『地域みっちゃん生活情報誌®』は35都道府県で175誌発行しています。総発行部数は1,245万部で、目標は5,000万部です。

令和2年に行われた国勢調査の結果によれば、日本の一般世帯数は5,570万5千世帯。一方、令和5年住宅・土地統計調査によれば、空き家の数は900万戸です。

つまり、5,000万部という目標は日本全国の全世帯に情報誌を届けるという決意に他



への進出、市区町村や県単位での占有率の上昇など、やるべきことはたくさんあります。来期も中広グループ各社による新規創刊や既存誌の増刷のほか、新しいVC加盟社の開拓など、目標に向けて一歩ずつ歩みを進めていきます。

課題解決で人に寄り添う HAPPY MEDIA®

HAPPY MEDIA®は、より深く、地域課題やターゲット読者の困りごとの解決に主眼を置いたメディア群です。

例えば、全国5エリアで発行している『ま・こっと』は、未就学児を持つ親のための子育て情報誌。単純な習い事やお出かけの

情報に終始するのではなく、子どもと一緒に体験の提案、幼い子どもならではの病気の対処法、読み聞かせに最適な絵本情報など、子育ての困りごとを解決して、この時期ならではの子育てを楽しんでほしいという思いが編集方針です。

高校生のための就職応援本『Start!』は、地域企業の魅力や仕事内容の詳細を伝えることで高校生の選択肢を増やし、就職におけるミスマッチや早期退職を防ぐことを視野に入れて作られています。

さらに総合求人誌『Workin』は、パート・アルバイトから新卒正社員、中途社員、派遣社員まで多彩な働き方を掲載することで、求職者と事業者をつなぎ、今まさに地域が直面している採用課題の解決に尽力しています。

『地域みっちゃん生活情報誌®』もHAPPY MEDIA®のいちブランドであり、合算した総発行部数は1,450万部を超えます。目的はその通り、課題解決を通して読者に寄り添い、幸せや笑顔を提供すること。これは全世帯ではなく、全日本国民に届けたい当社グループの想いであり、メディアを持つ会社としての覚悟です。

『地域みっちゃん生活情報誌®』とHAPPY MEDIA®に共通するのは、徹底して地域にこだわったメディアであり、必要としている人々へこちらから情報を届けることです。

ふたつの商標は、中広グループが目指す未來への羅針盤です。今後も大切に育み、発展させてまいります。

リベラルアーツを身に纏う

—上機嫌を我がものに、「ありがとう」で満ち溢れろ—

思想を持つか、否か その覚悟が組織を分ける

2月は組織の真価が問われる月です。正月の高揚は消え、春の兆しはまだ遠い。広告業界にとっては閑散期と呼ばれ、数字も空気も静まり返る。寒さと沈黙が重なり、人の心は内へ内へと向かいます。しかし私は、この2月を単なる谷間だとは考えません。むしろ、思想を持つ組織が否かが、最もはっきり表れる季節だと思っています。

日本全体を見わたせば、株価の高騰とは裏腹に、社会の元気は落ち込んでいます。経済が回復している実感は伴わず、物価高は静かに暮らしを圧迫。政治は、政権党首が高支持率に乘じ、次年度予算成立を後回しにして総選挙へ。中国の理不尽な対応もあり、短期対応に追われ、国家としての長期的構想が国民に十分共有されているとは言い難い状況です。

世界に目を向ければ、情勢はさらに厳しい。1月9日のブログで、米国トランプ大統領がベネズエラのマドゥロ大統領を拘束し、米国へ連行した報に触れました。この一件に見たのは、善悪や理屈を超えた、力による秩序が現実として立ち現れる世界です。日本のメディアは一斉に非難しました。当然の反応ですが、私は思うのです。その批判は、果たしてどこまで当事者意識を伴っているのか、と。

トランプ大統領にとって、マドゥロ氏は國家元首ではありません。米国に麻薬を流し込み、犯罪組織を統括する首謀者です。犯罪者を拘束して何が悪いのか。それがトランプ政権の論理であり、米国という国家の論理でもあります。今回の件は、中国をはじめとする反米諸国に向けた明確なメッセージでしょう。「米国に刃を向けるなら覚悟しろ」。そう、言葉ではなく、現実の軍事力で示したのです。

理想や建前では、もはや世界は動きません。国家も、組織も、覚悟を持つ者だけが生き残る。甘い期待や情緒的な議論は、容赦なく切り捨てられる時代に入りました。もちろん、軍事力強化を是とするものではありませんが、この厳しさから目を背けず、私は直視すべきだと考えています。

地域に泥臭く向き合う 広告という生業の誇り

日本における冷厳な現実として、長年抱えてきた少子高齢化、人口減少という構造

問題は、いよいよ地方の現場に重くのしかかっています。人が減り、働き手が減り、商いが細る。それでも歯を食いしばり、工夫を重ね、地域を守ろうとする人々は、確かに存在しています。問題はそうした努力が見えにくく、伝わりにくく、語られにくい構造にあります。

ここで、中広グループの立ち位置が鮮明になります。『地域みっちゃん生活情報誌®』は声なき声を拾い、小さな商いに光を当て、日々の営みに意味を与えるメディアです。その積み重ねが、人の気持ちを支え、地域の温度を保つ。だからこそ、私たち自身が問われます。この仕事に、どんな覚悟で向き合っているのか。

私たちの情報誌に向き合う姿勢は、地域を歩き、そこに生きる人々と顔を合わせ、時には頭を下げ、断られ、それでも寄り添いを忘れ



ず、言葉を探し続けることがあります。実に泥臭い仕事です。数字に追われ、締め切りに迫られ、思うように伝わらず、自分の力に歯噛みする夜もあります。それでも、この生業を選び続けている。

私は共に働く仲間を「同志」と呼んでいます。日本を元気にする。その志を胸に、同じ現場に立ち、同じ悩みを引き受けってきた仲間だからです。

『地域みっちゃん生活情報誌®』の発行部数は1,245万部。他のHAPPY MEDIA®と合わせると1,450万部超を発行し、暮らしの中へと届けています。これは日本有数の規模であり、750名の同志が積み上げてきた、紛れもない成果です。1ページの誌面が、読者の店選びとなり、働く決断となり、地域の循環を生む。だからこそ、広告とひたむきに向き合い続ける。この生業を共に歩んでいること自体が、私たちの誇りです。

三つの言葉を 思想として纏う企業へ

この誇り高き生業に生きる私たち中広グループが、2026年にさらなる大躍進を果たすために必要な思想として、三つの言葉を掲げたい。二つは「上機嫌」と「ありがとう」です。私がモットーとする上機嫌は、單なる商いの問題ではありません。どんな状況に置かれても、自分の感情の主導権を他人や環境に渡さないという覚悟であり、現実を直視した者だけが選び取れる強さの表現なのです。

「ありがとう」も同じです。「ありがとう」は礼儀ではなく、「ありえ難きもの」に気づいた者だけが口にできる言葉です。仲間にいること。仕事ができること。支えてくれる人がいること。家族が送り出してくれること。「ありがとう」を心の底から言える人間は、自分が独りで生きていません。人・時間・運・環境——すべては与えられているのだと受けとめた瞬間に、自然と口について出てくる言葉です。だからこそ「ありがとう」を口癖にできる人は強い。謙虚で折れず、周囲を温める。そんな人材が集まつた組織は、搖るぎないものになると私は信じています。

1月号で触れた教養経営(リベラルアーツ)が、いま同志に必要な三つ目です。広告を深める道は、常に人間理解から始まります。人間とは何か。働くとは何か。AIが急速に活用される時代だからこそ、人類史や哲学、心理学に学び、問い合わせ立て、本質を見抜き、人間を深く理解する力が判断の軸となります。その土台に据えるべき思想が、上機嫌であり、そして「ありがとう」が飛び交う組織であることです。上機嫌は覚悟、「ありがとう」は組織の品格です。その上にリベラルアーツを重ねた時、我々はAI時代の羅針盤を持ち、歩みを早めることができます。

最後に、改めて宣言したい。上機嫌を、借りものにするな。自分の修養として、我がものにせよ。「ありがとう」を、習慣で言うな。奇跡に気づいた者として口にせよ。リベラルアーツに裏打ちされたこの思想が社風として定着するまで、私は叫び続けます。それこそが、中広グループが社会に認知され、必要とされ、地域に本当に役立つ仕事ができる理由になるからです。

地域に根を張り、言葉を磨き、汗をかき、堂々と生き抜こう。寒風の中にあっても、心を熱くして。それが50周年の前夜、2026年を生き抜くための、中広グループ全員の覚悟であれ。

2026・如月・白銀山・岐阜城を仰げ。如水こと二代目藤巻



HAPPY MEDIA 地域みっちゃん生活情報誌® 月間総発行部数 35都道府県175誌

12,452,173部

※情報は2026年1月発行号に基づき掲載しています。※VC発行エリートを含む。※世帯到達率は配布部数を2025年9月1日現在の各県が公表している世帯数で割り算出
※一部イレギュラーな発行に伴い12月に流通していないものも含む。※発行日は月により変動する可能性がございます。詳細はお問い合わせください
※上記部数には設置・季刊誌媒体を含みません

北海道

道内発行
媒体数
6誌
928,540部

SORA
vol.131
滝川市・砂川市・赤平市・歌志内市・新十勝郡・広島市大曲町
41,500部
20日発行

ふりつけー

豊平区・清田区
南区版
vol.239
札幌市豊平区・清田区・南区・中央区(東部)・北広島市大曲
229,675部
第4金曜日発行

北区・東区版
vol.210
札幌市北区・東区
236,370部
第4金曜日発行

白石区・厚別区版
vol.236
札幌市白石区・厚別区
中央区・北区・成川(アリ)東・江別市・麻生地区
173,615部
第4金曜日発行

西区・手稲区版
vol.246
札幌市西区・手稲区
中央区(西部)・小樽市(一部)
186,380部
第4金曜日発行

Ao
vol.20
千歳市・恵庭市
61,000部
第4金曜日発行

岩手県

県内
総発行部数
1誌
120,000部

ゆうゆう
vol.576-577
盛岡市・滝沢市(一部)・矢巾町(一部)・紫波町(一部)
最短火曜日発行
120,000部

秋田県

先月より**850部増**

県内
総発行部数
1誌
138,400部

αKuRaSu
vol.199
秋田市
138,400部
1日発行

宮城県

県内
総発行部数
5誌
607,840部

ひじかや
vol.143
石巻市・東松島市・安田町
59,000部
20日発行

さまぐれ
vol.107
大崎市
40,000部
20日発行

とみすず
vol.130
仙台市泉区
84,600部
20日発行

なうじ!
vol.124
名取市・岩沼市・直理町・柴田町
大河原町
53,830部
20日発行

ARIFT
宮城版
vol.1849
370,410部
第4または第5金曜日発行

山形県

県内
総発行部数
2誌
216,550部

あまると
vol.119
東南・おきたま版
米沢市・南陽市
高畠町・川西町
60,000部
第2または第3金曜日発行

あまると
vol.119
西おきたま版
長井市・白石町
飯豊町・小国町
22,000部
20日発行

ARIFT
山形版
vol.1849
82,000部
20日発行

東京江戸・西村山郡河内町・西村郡志村町・西川町
西山郡喜多方・東山郡大河原町
山形郡・山寺町・上山市・東山郡
山形郡・山寺町・天童市・麦积町
庄原市・柏原市・柏原町
134,550部
第4または第5金曜日発行

ARIFT
山形版
vol.1849
53,500部
25日発行

福島県

県内
総発行部数
2誌
86,500部

すかのと
月刊
vol.118
磐梯川市・猪之町・玉井村
玉川町・石川町・平川町
53,500部
25日発行

ARIFT
山形版
vol.1849
33,000部
25日発行

月刊 こみのと
vol.40
白河市・西郷村・泉崎村・中島村
99,820部

ARIFT
東京北東版
vol.1846
99,820部
第1または第2金曜日発行

ARIFT
山形版
vol.1849
99,820部
第1または第2金曜日発行

月刊 こみのと
vol.40
白河市・西郷村・泉崎村・中島村
33,000部
25日発行

新松戸・北小金版
vol.1161~1164
63,665部
毎週金曜日発行

茨城県

県内
総発行部数
5誌
250,200部

ひたち
vol.195
日立市
62,000部
25日発行

にしも
筑西市・下妻市
結城市
44,000部
25日発行

こがも
古河市・猿橋町
木戸原木町
52,000部
25日発行

かしこ
鹿嶋市・神栖市
潮来市
50,000部
25日発行

ちいき新聞
佐倉西版
vol.2294~2297
佐倉市
43,665部
毎週金曜日発行

ARIFT
横浜南版
vol.1848
横浜市・港北区・神奈川区
秦野市・相模原市
173,930部
第3または第4金曜日発行

東葉版
八千代市
八千代台版
八千代市
62,370部
毎週金曜日発行

横浜北版
八千代市
八千代台版
八千代市
226,800部
第3または第4金曜日発行

川崎・大田版
川崎市・大田区
八千代市・習志野市
八千代市
179,740部
第3または第4金曜日発行

新潟県

県内
総発行部数
3誌
580,470部

ちいき新聞
佐倉西版
vol.2294~2297
佐倉市
173,930部
毎週金曜日発行

ARIFT
横浜南版
vol.1848
横浜市・港北区・神奈川区
秦野市・相模原市
173,930部
第3または第4金曜日発行

東葉版
八千代市
八千代台版
八千代市
226,800部
第3または第4金曜日発行

横浜北版
八千代市
八千代台版
八千代市
179,740部
第3または第4金曜日発行

川崎・大田版
川崎市・大田区
八千代市・習志野市
八千代市
179,740部
第3または第4金曜日発行

新潟県

県内
総発行部数
3誌
580,470部

ちいき新聞
佐倉西版
vol.2294~2297
佐倉市
173,930部
毎週金曜日発行

ARIFT
横浜南版
vol.1848
横浜市・港北区・神奈川区
秦野市・相模原市
173,930部
第3または第4金曜日発行

東葉版
八千代市
八千代台版
八千代市
226,800部
第3または第4金曜日発行

横浜北版
八千代市
八千代台版
八千代市
179,740部
第3または第4金曜日発行

川崎・大田版
川崎市・大田区
八千代市・習志野市
八千代市
179,740部
第3または第4金曜日発行

新潟県

県内
総発行部数
3誌
580,470部

ちいき新聞
佐倉西版
vol.2294~2297
佐倉市
173,930部
毎週金曜日発行

ARIFT
横浜南版
vol.1848
横浜市・港北区・神奈川区
秦野市・相模原市
173,930部
第3または第4金曜日発行

東葉版
八千代市
八千代台版
八千代市
226,800部
第3または第4金曜日発行

横浜北版
八千代市
八千代台版
八千代市
179,740部
第3または第4金曜日発行

川崎・大田版
川崎市・大田区
八千代市・習志野市
八千代市
179,740部
第3または第4金曜日発行

新潟県

県内
総発行部数
3誌
580,470部

ちいき新聞
佐倉西版
vol.2294~2297
佐倉市
173,930部
毎週金曜日発行

ARIFT
横浜南版
vol.1848
横浜市・港北区・神奈川区
秦野市・相模原市
173,930部
第3または第4金曜日発行

東葉版
八千代市
八千代台版
八千代市
226,800部
第3または第4金曜日発行

横浜北版
八千代市
八千代台版
八千代市
179,740部
第3または第4金曜日発行

川崎・大田版
川崎市・大田区
八千代市・習志野市
八千代市
179,740部
第3または第4金曜日発行

新潟県

県内
総発行部数
3誌
580,470部

ちいき新聞
佐倉西版
vol.2294~2297
佐倉市
173,930部
毎週金曜日発行

ARIFT
横浜南版
vol.1848
横浜市・港北区・神奈川区
秦野市・相模原市
173,930部
第3または第4金曜日発行

東葉版
八千代市
八千代台版
八千代市
226,800部
第3または第4金曜日発行

横浜北版
八千代市
八千代台版
八千代市
179,740部
第3または第4金曜日発行

川崎・大田版
川崎市・大田区
八千代市・習志野市
八千代市
179,740部
第3または第4金曜日発行

新潟県

県内
総発行部数
3誌
580,470部

ちいき新聞
佐倉西版
vol.2294~2297
佐倉市
173,930部
毎週金曜日発行

ARIFT
横浜南版
vol.1848
横浜市・港北区・神奈川区
秦野市・相模原市
173,930部
第3または第4金曜日発行

東葉版
八千代市
八千代台版
八千代市
226,800部
第3または第4金曜日発行

横浜北版
八千代市
八千代台版
八千代市
179,740部
第3または第4金曜日発行

川崎・大田版
川崎市・大田区
八千代市・習志野市
八千代市
179,740部
第3または第4金曜日発行

新潟県

県内<br

Chuco Works

プロスポーツのシーズン開幕を盛り上げる

地域みっちゃん
生活情報誌。

地元ラストシーズンの感謝を伝える誌面紹介

三重県鈴鹿市を拠点に活動するラグビーチーム「三重ホンダヒート」より、来場促進と認知向上を目的に、シーズン開幕となる11・12月号で誌面告知のご依頼をいただきました。



2025~26シーズンをもって栃木県への移転が決まっており、三重県での活動がラストシーズンとなることから、本拠地である鈴鹿市の情報誌を中心に計6誌で掲載。鈴鹿市・亀山市の情報誌『Bellve club』では、表紙・巻頭特集にて展開しました。ラグビー観戦が初めての人でも楽しめるよう、試合当日のイベント情報を前面に打ち出し、親しみやすいアメコミ風のデザインに。このデザインが好評で、配布用チラシのデザインについてもご相談をいただきました。

今後も『地域みっちゃん生活情報誌。』として情報を伝えるだけでなく、行動につながる提案を行い、地域を盛り上げる誌面づくりを進めています。

(Bellve club編集室・浅野)

大手ガス会社の創業祭を企画・運営

イベント

イベントプロデュースは当社にお任せ！

本イベントは、ガス会社であるクライアントの契約者へ感謝を伝えるとともに、地域社会の発展に寄与する姿勢を発信することを目的に開催されました。当社は企画段階から参画し、集客プランの構築から告知物の制作、タレントの起案・折衝、マルシェの出店調整、当日の運営まで、トータルでプロデュースいたしました。



当日は、屋外で地元グルメや雑貨を集めたマルシェ、キッズダンス、キャラクターショーを実施し、屋内では契約者向けのガス機器セールやbingo大会、野菜詰め放題などを展開。多様なコンテンツにより、幅広い層の来場者でにぎわいました。イベントの収益の一部は地域の緑化団体へ寄付を予定しているなど、企業の社会貢献活動(CSR)としての側面も支援しております。

当社は緻密な設計力と豊富な経験を生かし、準備から当日運営までイベントの成功を全面的にバックアップいたします。

(中部PM2課・宮西)

HAPPY MEDIA

『ままこっと®』



【配布先】県内全域の幼稚園・保育園・
こども園
【設置先】産婦人科・小児科・児童館・
図書館・ショッピングモール等
【仕様】冊子A5版 オールカラー

『Start!』



【配布先】高校
【仕様】冊子A4 オールカラー
【発行エリア】山形県、群馬県、岐阜県、愛知県、三重県、滋賀県、鳥取県、福岡県

山梨市制20周年を記念した商店応援企画

地域みっちゃん
生活情報誌。

「応援します」の声を届ける、情報誌の力

山梨市制20周年に際した「山梨市商店応援プロジェクト」の広報に、峡東地域で発行する『ピグレ』をご活用いただきました。プロジェクトの核は、山梨市商工会考案の合言葉「応援します」。私たちはこの素敵な思いを届けるべく、山梨市商工会加盟の飲食店や小売店など計60店舗を誌面とクーポンアプリ「フリモ」で紹介し、地域経済の活性化と新たな店舗ファンの獲得を目指しました。



店舗で買い物をして合言葉を伝えると、市出身のマキタスポーツさんとコラボしたオリジナルコットンバッグがもらえる仕掛けは、店主と読者が言葉を交わす大切なきっかけとなりました。QRコード読み取り数の解析結果からは、私たちの媒体が山梨市商工会の思いを届け、実際の行動へつなげる架け橋として機能したことがうかがえます。

これからも情報誌を通じて地域に新しい笑顔と交流を生むべく、峡東地域に深く根ざして歩み続けてまいります。

(ピグレ編集室・小林)

親子が遊びながら学べる情報誌

キッズフリモ

読者、スポンサー、地域の皆さんに愛され5周年

2020年10月に創刊した『キッズフリモ』は、名古屋の親子を対象にした情報誌です。コロナ禍の外出自粛の中、親子で楽しめるおうち時間を提供したいという思いから生まれました。



創刊当時から、地元企業をはじめ多くの店舗からご支援をいただき、おかげさまで20号を迎えた。設置には、子育て関連施設等約300カ所にご協力いただき、名古屋および近郊を網羅しています。

巻頭特集では子ども目線で名古屋の魅力を発信。季節に合わせた塗り絵や間違い探し、迷路など遊びながら学べるコンテンツを多数掲載し、毎号発行部数に対して約2割の読者からコメントをいただいている。学べるコンテンツは、編集タイアップという形で企業コラボも多数。こうした制作実績から、オリジナルツール制作のご相談も増えています。子育てファミリー向けのコンテンツ制作をお考えでしたらぜひご相談ください。弊社クリエイティブチームが自信を持ってご提案いたします。

(中部PM2課・尾関)

CHUCO CLUB

2026年 年頭訓示ライブ配信

仕事始めの1月5日、中広グループ全従業員に向けた年頭訓示をライブ配信しました。後藤会長からは、今置かれている環境は当たり前ではないこと、そして2026年は「ありがとう」が飛び交う職場にしようと話がありました。大島社長は、創業49年を迎える2026年は、次の50年を築くための重要な1年であると説明。プロジェクト名は「50X(ファIFTY EICKS)」とし、HAPPY MEDIAの劇的進化と商品価値の劇的向上が必要であること、それに向けた具体的な方針が示されました。



▲新プロジェクト「50X」を発表する大島社長

中広グループは今年も感謝の心を持ちながら、さらなる進化を続けてまいります。

(総務人事部・酒井)

全社員にGoogle Workspaceアカウント発行

今年、中広はGoogle Workspace導入によりDXを大きく加速させます。業務ツールの一元化と共同化により、全国ローカル情報のリアルタイムピックが可能となります。そうしたローカル情報をパックグラウンドに、AI(Gemini)の最新モデルを活用し、当たる広告投入先や当たるクリエイティブを迅速に提供します。2026年は爆発的な広告価値向上と持続的な企業価値向上にご期待ください。

(社長室・松野)

愛知淑徳大学タイアップ講義

当社は、愛知淑徳大学ビジネス学部の「企業分析プロジェクトB」に、中部地方の上場会社としてタイアップしています。昨年10月に倉橋取締役が業態会社説明を行った後、学生は4チームで業界・事業・財務諸表・将来展開の分析・検討を重ね、本年1月に最終報告会が開催されました。フレッシュな視点での分析は当社にとって意義深いものとなりました。今後もキャリア教育に資する活動に努めます。



▲学生の皆さんと集合写真／学生たちに講義する倉橋取締役

VCTOPIC

佐賀県『月刊ぶらざ佐賀』株式会社ぶらざ

1社単独7ページのブックインブックを掲載

佐賀県内でトップクラスのシェアを誇る結婚式場を運営するメモリードグループより、期間限定のウエディングパッケージプランの告知に際し、「月刊ぶらざ佐賀」へ広告掲載をいただきました。



全7ページ構成で、情報誌の中にブライダル情報誌があるかのようなデザインを展開し、インパクトのある誌面に。新年号らしく多彩な企画が並ぶ1月号の中でも注目度を高めるため、表紙に導入アイコンを配置しました。その結果、読者アンケートでは気になったページとして多くの反響が寄せられ、読者の高い関心を集め企画となりました。

今後も今回の企画のような、若い世代にも役立つ情報を届ける情報誌づくりを目指してまいります。

部署だより NO.145

株式会社ケイ・クリエイト
『くれよん一宮・稻沢版』編集室



▲『くれよん一宮・稻沢版』編集室のスタッフ

愛知県一宮市と稻沢市で発行している、地域みっちゃん生活情報誌『くれよん』。

一宮市は古くから織維の街として発展し、喫茶店のモーニングサービス発祥の地としても知られる活気ある街です。また稻沢市は、日本有数の植木・苗木の産地であり、天下の奇祭「国府宮はだか祭」が受け継がれる歴史深い地域です。

私たちはこの広大な2エリアの魅力を再発見し、地域の皆さんの暮らしを彩る情報を、毎月約20万部お届けしています。読者の皆さんに「今月はここへ行きたい！」と感じていただけるよう、地元を愛する6名のスタッフが、話題の新店から隠れた名店、伝統行事の裏側まで、独自の視点で丁寧に取材・編集しています。

これからも一宮・稻沢の「人・街・情報」を繋ぐ架け橋として、地域にどこよりも密着し、読者に寄り添った信頼される誌面づくりに邁進してまいります。パワーアップし続ける今後の『くれよん一宮・稻沢版』に、どうぞご期待ください。

(くれよん一宮・稻沢版 濑古)

編集後記

弊社は2027年5月1日に創立50年を迎えます。これに伴い、私は2026年度を、記念日を迎えるための準備イヤーとして位置づけています。

創業以来、大切にしている言葉があります。社訓でもある「飲水不忘掘井人」。「水を飲むときに、井戸を掘った人のことを忘れてはならない」という中国のことわざです。50周年という節目に際し、現在に至るまで一つ一つ実績を積み上げてきた社員、これまで成長を支えてくださった顧客・読者・取引先の皆さんへ、心からの感謝を伝えたい。そして、「中広を応援してきてよかった」と思っていただけの周年イベントを実施したい——それが私の強い思いです。

100周年という次の大きな節目には、私は立ち会えないでしょう。だからこそ、この50周年を未来へつなぐ節目にしたいと考えています。

(広報・マーケティング 岡本)



子育て家族に“体験の場”を届ける ままっこランドの可能性

『まま・こっこ』は、中広が展開するHAPPY MEDIA®ブランドの中でも、「子育て家族」に特化したセグメントメディアです。『地域みっちゃん生活情報誌®』が「住む地域」という切り口で読者の暮らしに寄り添うのに対し、「まま・こっこ」は県単位で、子育て中のママ・パパに本当に必要な情報を届けることを目的としています。今回は、『まま・こっこ』編集室が取り組んだリアルイベント「ままっこランド」について、結城奈津美編集長にお話を伺いました。

»『まま・こっこ』とはどんな媒体か

結城／0歳～6歳までのお子さんを持つ子育て家庭に向けて発行するフリーマガジンで、幼稚園や保育園等を通じて配布いただいている季刊発行の媒体です。制作にあたるスタッフもみんな“ママ”なので、“ママによる子育て家族のためのバイブル”になればいいなと思って発行しています。

岡本／確かに子育ての悩みや関心事って、“家族のライフステージ”で共通点が強く出ている気がします。保育園・習い事・食育・休日の過ごし方…同じ“子育て世代”だからこそ分かる情報は多そうですね。

»ままっこランドを始めたきっかけ

結城／ままっこランドの根底には、「子どもたちに多様な“体験の機会”を提供したい」という思いがあります。

コロナ禍を挟み、子どもたちの体験機会が制限される時期が続いたことを受け、編集室では、地域の企業と連携して体験イベントをつくれないかと検討を始めました。

広告掲載だけでは伝えきれない“企業の価値”を、親子がリアルに感じられる機会をつくりたかったんです。そして、体験を通じて“できた！”を積み重ねられる場所を作りたいと思いました。

»イベント内回遊率や体験を促進する工夫

岡本／イベント内回遊貨も面白い発想ですよね。

結城／各ブースで体験するとイベント内回遊

「こっこ」がもらえ、最後は「こっこ」とショッ

ブ」(駄菓子屋さん)でのお買い物体験へ…と、自然と学びにつながる“循環設計”も、ままっこランドならではの工夫です。さらに2025年は、売上の一部を活用し、県内の児童養護施設の子どもたちへ「いちご狩り体験」をプレゼント。「イベントに来られない子にも体験を届けたい」という思いが形になりました。

»驚異の満足度93%超え

岡本／3度目の開催は結果も素晴らしいと伺っています。

結城／地域の大型施設内での開催も奏功し、過去最大規模となりました。ワークショップ体験も全館で実施され、ひよこふれあい、化石発掘、配達員・救急隊・自衛隊体験、料理、アナウンサー体験など、職業・食・環境・防災…多様な体験が1日でできる“体験の博覧会”に進化しています。

DETA

開催日	2025年11月29日・30日
会場	ジョイホンパーク吉岡
来場者	約4,600名(2日間)
事前予約	800席が30分で9割満席
キャンセル待ち	532名
施設来館者数	昨年対比102%

来場者アンケートによるイベント全体の満足度は「大変満足」54.7%「満足」39.2%となっていました、満足度93.9%という結果となりました。

岡本／満足度93%超えは脅威の数値ですが、広告業を生業とする当社としては施設の来館者数が昨対で102%というのも嬉しいところですね。

»属性セグメント媒体を発行する意義

岡本／最後に、結城さんに『まま・こっこ』という媒体を発行する理由、そして『地域みっちゃん生活情報誌』ブランドとは異なる意義について伺いたいです。

結城／地域密着の強さは『地域みっちゃん生活情報誌』の大きな価値です。でも“子育て”というテーマには、エリアよりも属性で強く共有・共感できる悩みや楽しみがたくさんあります。だからこそ、会社としてはコアな悩み・欲求に対してはコアな媒体を提供する価値がある、出稿主に対しても地域と属性の両輪で打ち出し方を変えることで、より大きなメリットを提供できると考えています。

岡本／地域を軸にしたメディアと、属性を軸にしたメディアが揃うことで、中広として提供できるソリューションの幅が広がり、結果的に地域や日本全体への情報提供価値が高まるに繋がっていますね。

子どもたちの学び、企業と地域の接点、家族の思い出。そのすべてを“子育て家族に寄り添う”ということを軸に編集部が丁寧に編んできました。

中広は今後も、地域ブランド『地域みっちゃん生活情報誌』に加え、属性セグメント型メディアという新たなアプローチに関しても、取り組み続けます。



出展企業の声(要点まとめ)

- こっこと2枚集めた！
- ひよこがかわいかった
- おうちづくりが楽しかった
- 駄菓子のお買い物がわくわくした
- 普段できない体験ができてよかった
- 企業のことを知れる機会にもなった
- 無料でこれだけ楽しめるのはありがたい
- ブースが多く待ち時間が少ないのが○
- 事前予約がすぐ埋まるので、当日枠がもっと欲しい
- 子どもたちが主体的に体験してくれるため、自社サービスの理解が深まる
- 地域の子育て層と直接接点が持て、企業ブランドの認知向上につながった
- スタッフにとっても“地域貢献を実感できる機会”になった

参加者アンケート

来場者からは470件を超える来場者アンケートが寄せられました。

子どもたちの声

- こっこと2枚集めた！
- ひよこがかわいかった
- おうちづくりが楽しかった
- 駄菓子のお買い物がわくわくした

保護者の声

- 普段できない体験ができてよかった
- 企業のことを知れる機会にもなった
- 無料でこれだけ楽しめるのはありがたい
- ブースが多く待ち時間が少ないのが○
- 事前予約がすぐ埋まるので、当日枠がもっと欲しい

会社概要	商 号 株式会社 中広 (CHUCO CO., LTD.)
	東証・名証 証券コード【2139】
創立	1978年
資本金	4億430万円
従業員	421名 グループ全体 741名 (2026年1月末現在)
事業内容	フリーマガジン事業 イベント・セミナー事業 プロモーション事業 通信販売事業 クロスメディア事業 VC事業(ボランタリー・チェーン)
理念	広告業を通して「地域社会への貢献」 (地方創生に!)
社是	人が命・人が宝・人が財産 (社員が輝く組織に!) 機会損失の排除 (モノ・トキ・ココロの無駄ゼロ)
社訓	飲水不忘掘井人 (感謝の心で!)
グループ会社	株式会社中広メディアソリューションズ https://chuco-ms.co.jp 株式会社ケイ・クリエイト http://www.k-create.co.jp 株式会社ケイビーエス http://www.post-kps.co.jp 株式会社関西ぱど https://www.kansaiapado.co.jp 株式会社まちトピア https://www.machitopia.com 株式会社中広ワークイン https://chuco-workin.co.jp



第48期 基本方針

スローガン Data Driven Innovation テーマ 生産性向上

オフィシャル運営サイト	●中広企業サイト ●中広採用サイト ●中広VCサイト ●フリモ(WEB) ●講演会インフォ ●わくわく生活(楽天)他 ●販促blog ●HAPPY MEDIA GUIDE(情報誌見積サイト) ●ハッピーメディア®児童虐待防止運動 ●日本地域メディアネットワーク(JLMN)
公式アカウント	●Facebook ●YouTube ●Instagram ●X(旧Twitter)
加盟団体	●JLAA 一般社団法人日本地域広告会会協会



沿革	会社のあゆみ	HAPPY MEDIA®のあゆみ
1978 設立	後藤数次社長就任	「かにさんくらぶ」創刊
1983 求人情報紙事業開始	滋賀県進出	
1986 後藤一俊社長就任	三重県進出	●50万部達成
1993 イベント・セミナー事業開始	福井県進出	講演会インフォ公式ウェブサイト開始
1994	愛知県進出	●100万部達成
1997	全国展開開始	
1998 通信販売事業開始	岐阜県・山梨県・兵庫県・和歌山県進出	「Start!」創刊
2006	名古屋証券取引所セントレックス上場	
2007	2009	●200万部達成
2008	2010	●300万部達成
2011 児童虐待防止運動を岐阜県高山市で開始	岐阜県・宮城県・新潟県・群馬県・大阪府進出	●青森県・石川県・富山県進出
2012 名古屋証券取引所第二部上場	北海道・埼玉県・佐賀県・香川県進出	●500万部達成
2013	2014 東京証券取引所第二部上場	●奈良県進出
2015 東証一部・名証一部に市場変更	東京都・愛媛県・静岡県・長野県・京都府進出	●500万部達成
2016	2017	「まっこ」創刊
2018 児童虐待防止運動を全国へ展開	愛知県交通事故死者数 全国ワースト脱却CP開始	●大分県進出
2019 後藤一俊会長就任	中島次郎社長就任	「Start!」創刊
2020 児童虐待防止運動が文部科学省とごども家庭庁を後援活動に	愛知県交通事故死者数 全国ワースト脱却CP達成	沖縄県進出
2021 多治見市とシティプロモーションの推進に関する連携協定締結	株式会社中広メディアソリューションズ設立	クーポンアプリ「フリモ」開始
2022 大島哲社長就任	株式会社ケイ・クリエイト設立	●1,000万部達成
2023 2024 2025	株式会社関西ぱど グループ化	●神奈川県進出
2025	株式会社まちトピア設立	広島県・秋田県・千葉県・岩手県進出
	株式会社中広ワークイン グループ化	●青森県・石川県・富山県進出

※従業員数はグループ会社含む

●おもなCSR・CSV活動 ●地域みっちゃん生活情報誌®

営業拠点	アライアンス事業部	EC統括室	管理本部	グループ会社
■ 本社	岐阜本社	名古屋本社	岐阜本社	株式会社中広ワークイン
■ FM事業部	福井県	愛知県	経理部・総務人事部	本社
『北海道』	ぎらめきくらぶ編集室	フリモUP編集室	米子市西福原2-9-49 2F	岐阜市東興町27 4F
『SORA編集室』	敦賀市野町40-277-2 1F	名古屋市中川区柳森町107 2F	TEL.0595-41-0156	TEL.058-247-2511
『山梨県』	Parupi・ピグレ編集室	守山フリモ・アサヒトセト編集室	リーガクラブ編集室	『はづか編集室』
『北海道』	甲府市上石田4-1-10	尾張旭市東本郷3-53 2F	名張市鴻之台3番町36-1	豊橋市岩瀬3-1-A
『SORA編集室』	TEL.055-221-0682	[守山フリモ]TEL.0561-42-5799	TEL.0595-41-0156	TEL.058-28-0663
『GIFUTO編集室』	TEL.055-221-0682	[アサヒトセト]TEL.0561-42-6981	TEL.0598-31-3623	伊勢市岩瀬3-6-5 2F
『AO編集室』	岐阜市東興町27 4F	ゆいまるくらぶ・かなうらぶ	イセラクラブ編集室	岐阜市東興町2丁目5-5 2F
『AO編集室』	TEL.058-247-2512	あやまつこ編集室	守山市岩瀬3-6-2 2F	TEL.0596-63-8282
『GIFUTO編集室』	TEL.052-829-0270	さみくらぶ編集室	からくらぶ編集室	豊橋市西町2丁目5-5 2F
『				